

## 式辞

寒さ知らず、春の訪れを感じる今日のよき日、目出度く卒業式を迎えた明星高等学校MGS四期生一一六名の生徒の皆さん、卒業おめでとう。皆さんはこの二年間、新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延する中で、不便で窮屈な日々を過ごすことを余儀なくされました。社会が大きく変化し、それまで経験したことがない生活を強いられ、不安や焦り、また、やり場のない葛藤をかかえながら過ごしてきたのではないでしょうか。しかし皆さんは、コロナ禍で右往左往しても、夢や希望を失わず、自分の将来への道を切り開くことに真摯に取り組み、模擬試験や共通テストに一喜一憂しながらも、毎日一步一步前に進み、ほんの数日前まで、大学受験という檜舞台に何度も立ち続けました。そして、既に桜が咲いた人もいます、これから桜が咲く人もいます。ここまでに健康で真面目に勉学に打ち込み、自己成長・自己実現に向けて努力をした皆さんは明星の誇りです。この三年間は、皆さん方の一生の中でも極めて貴重で有意義な時間でした。コロナ禍であつても、青春時代だからこそ体験したこと、学んだことは多かつたと思います。机上の勉学とは異なる体験や学びは、皆さんの生き方・考え方、仕事においてても、大いに役立つと思つて下さい。

こんな言葉があります。「姑息な無駄は無駄で終わるが、壮大な無駄は財産となる」皆さんはこの三年間、数多くの壮大な無駄をやってくれたはずです。きつと、今から何年後、何十年後、明星時代を思い浮かべる時、いくつもの壮大な無駄を、笑顔で思い浮かべているはずです。

文豪夏目漱石は熊本時代のある日、後に有名な物理学者になる寺田寅彦が家に遊びに来た時、庭の小さな山を指さして、「あの小山のてっぺんに登るのに、まつすぐ頂上を目指す者もいれば、裏の方から這いあがる者もいるだろうし、全く違った径から登る者もいる。径の間違いで滑り落ちる者もいるだろうが、落ちることはたいしたことではない。落ちたり、疲れたり休んだり、あちこちでいろんな体験をした方が、山の違ったカタチや肌触りにも触れることができるから、あちこちでミチクサした方が、若い時は、いや歳をとつてからでも、その方がいろんなことが身につくんじゃないか。人生で言えば、ゆたかな人生の路を歩んでいるんじゃないか。」と言つて、「壮大な無駄」の本質を寺田寅彦に諭します。最初から到達する山の頂が見えて結末が決まっていると、意外性や自由がなくなつてしまうことを、夏目漱石は知っていたのでしよう。

二十一世紀も五分の一を過ぎ、社会のグローバル化は既に当たり前となり、高度情報化は「AI」の急速な発達により更なる社会変容をもたらしています。そして皆さんは、「人間とAI」の融合が進む society5.0 の超スマート社会で生きていかねばなりません。だからこそ、人間的なことの大切さを忘れないで欲しいと願ひ、壮大な無駄と夏目漱石の言葉を式辞の中で紹介いたしました。もう一つお話しさせて下さい。今年四月の改正民法施行で成人年齢が十八歳に引き下げられ、皆さんは成人となります。従来の二十歳までと異なり、親の同意がなくてもできることが増え、選挙にいくこともそうですが、大人として振る舞うことが求められます。権利には義務が伴い、自由を求めらるなら責任を果たさなければなりません。大人として「権利と義務」、「自由と責任」が常に表裏一体の関係にあることを覚えておいて下さい。そしてこれからの人生で、何事に対しても至誠を持って実行することが、明星教育の一番大事な教えであるということも忘れないで下さい。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、これまで明星の教育活動にご理解ご協力いただき、誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。さらには、卒業記念品としてウオータデイスペンサーを贈呈頂き、高い席からではございますがお礼申し上げます。それでは、卒業生の皆さん、皆さんの将来の限りない可能性を期待して卒業式式辞と致します。卒業おめでとう。

令和四年三月一日 明星高等学校長 福本眞也